

秋田県市町村未来づくり協働プログラム

上小阿仁村プロジェクト「多様な交流の推進による地域力強化プロジェクト」における 事後評価調書

1 プロジェクトの目的

人口減少と少子高齢化が同時に進行する上小阿仁村においては、地域コミュニティの機能低下にとどまらず、自助や共助がまもなく限界に達し、維持存続が危ぶまれる地区もあることから、将来にわたり安心して暮らせる地域社会を構築することが喫緊の課題となっている。

このため、多様な主体による高齢者の見守り・支え合い体制を充実・強化するとともに、地域資源を活用して村内外の交流を積極的に進めることにより、人口減少社会においても、住民が生き生きと暮らせる地域コミュニティの維持・強化を図る。

2 プロジェクトの概要

策定年月日	実施期間	上小阿仁村 総事業費 (千円)	
			うち交付金 (千円)
H28. 3. 25	H28～R1	540, 547 (580, 043)	200, 000

※ () 内は計画値

【プロジェクトを構成する事業】

事業名	総事業費 (千円)	うち交付金 (千円)	実施年度
1. 宿泊交流施設等整備事業	534, 855	200, 000	
(1) 実施設計、既存建物の解体	63, 504	10, 000	H28
(2) 施設整備、関連設備等の導入	443, 994	190, 000	H29
(3) 外構工事、外構工事設計監理	27, 357	0	H30
2. 里山を活用した交流推進事業	5, 692	0	
(1) 地域特有の資源を活用した体験メニューの開発・実施、首都圏大学や都市との地域交流	5, 692	0	H28～R1
計	540, 547	200, 000	

3 プロジェクトの成果指標と達成状況

指標名	基準値 (H26 年度)	目標値 (R1 年度)	実績値 (R1 年度)	達成率
宿泊交流施設の延べ利用者数（人）	—	10,000	11,412	114%
有償ボランティア組織の会員数（人）	—	45	0	0%
体験メニュー参加者数（人）	112	1,000	435	44%

4 その他参考となる事項

○多様な主体による高齢者の見守り・支え合い体制の充実・強化について

(1) 上小阿仁村地域見守りネットワーク会議の発足

警察や消防、村内集落会、民生児童委員、婦人会、郵便局、新聞配達業者、社会福祉協議会等で構成する「上小阿仁村地域見守りネットワーク会議」を発足し、高齢者の見守りに関する情報交換を行っているほか、構成団体の日頃の活動や業務を通じて高齢者へ声掛けや訪問を行っている。

(2) 高齢者宅の除排雪支援

高齢者が冬期間、宿泊交流施設等整備事業により整備する短期滞在型居室に安心して移り住むためには、不在中の自宅の除雪を併せて考える必要があったことから、これまで近所の助け合い等で対応していた除雪を、有償ボランティア組織により対応することを目指して、自治会等に対してヒアリング調査を実施した。調査の結果、隣近所だけでなく、村全体の除雪となると負担が大きいといった声や、組織の母体となり得る協力者を確保できなかったことなどから、有償ボランティア組織の立ち上げには至らなかったものの、近隣住民の共助は盛んに行われている。

また、村では75歳以上の高齢者等に対して除雪費を助成しており、業者・個人事業主だけでなく、住民相互での除雪費用への助成申請が増加するなど、共助による助け合いの機運が高まってきている。

(3) 認知症高齢者等見守りネットワーク事業

平成29年度から「上小阿仁村認知症高齢者等見守りネットワーク事業」を開始し、利用登録している認知症高齢者等が徘徊行動等により行方不明となった場合、事前に登録した協力員にメール等で情報提供を行い、搜索等支援を行っている。

(参考) 令和2年11末日現在におけるネットワーク事業への登録状況

利用登録済高齢者（人）	1
登録協力員（人）	48
登録団体（団体）	6

○交流人口の拡大について

(1) NPO法人の設立

交流人口拡大に向けた取組は、これまで北秋田地域振興局や村産業課、村商工会などにより組織された「上小阿仁村食農観丸ごと推進協議会」を中心に事業を展開してきたが、平成29年に「村を元気にしたい」という有志により「NPO法人こゑに食農観応援隊」が設立され、交流人口拡大事業の受け皿になりえる民間組織が誕生した。

同団体が実施するコブ杉の観光ガイド事業は、平成29年度から令和元年度までの3年間で、延べ200人弱の参加者を集めたほか、エゴマ栽培講習会や特産品であるほおずきの殻を使った染め物講習会を複数回実施するなど、精力的に活動している。

(2) 農家民宿の推進

村内に宿泊施設が1軒しかないことに加えて、規制緩和により農家民宿開業のハードルが下がったことから、上小阿二村食農観丸ごと推進協議会を中心に、開業に向けた研修会や先進地視察を実施した。事業参加者のうち1名が令和2年度中に農家民宿を開業する見込みとなっており、一般社団法人秋田犬ツーリズム（大館市）などのサポートを受けながら開業準備が進められている。

5 民間アドバイザーの意見

(民間アドバイザー：国立大学法人秋田大学教育文化学部 准教授 白木智昭 氏)

(1) 多様な世代が集い、交流する拠点づくり

①事業の成果

宿泊滞在エリアにおいては、春～秋期には村外の大学生や観光等の来村者の宿泊施設として、冬期には冬の生活に不安を抱える高齢者の居住施設として活用されるなど、村内外との交流拠点としての機能を十分に果たしている。

集合住宅エリアにおいては、単身者・若者向け村営住宅として供用されており、施設の充足率は100%で推移するなど、若者の定住拠点として期待どおりの機能を発揮している。

交流エリアでは、無料で利用できる交流スペースでは幅広い世代の利用実績があるほか、学童保育施設としても多くの児童に利用されており、村の新しい交流拠点として定着しつつある。

②成果指標の達成状況と事業の評価

成果指標である宿泊交流施設の延べ利用者数は10,000人を超過しており、目標を達成している点は高く評価できる。

特に、宿泊交流拠点施設のオープン後、放課後児童クラブの移設や各種会議等の会場のほか、各種体験・研修活動にも活用されるなど、村民の利用が着実に増加している。

施設の中心に位置するホールは無料・随時で解放されており、読書や趣味の場としての利用など、村の新しい多世代交流の場としての機能を十分に発揮していると評価できる。

(2) 高齢者の見守り・支え合い体制の充実・強化

①事業の成果

コミュニティ型の高齢者生活支援モデルを構築するため、拠点施設における集落・グループ単位での冬期居住を実施することで、今後増加が予想される高齢者世帯の冬期の見守りや安心・安全な生活環境の確保に向けた社会実験として意欲的な取組と評価できる。

高齢者の生活を支える体制を強化するため、有償ボランティア組織を立ち上げ、除排雪等の支え合い体制の確立することを目指したが、現時点では十分な成果を得られていない状況にある。

②成果指標の達成状況と事業の評価

成果指標である有償ボランティア組織の設立に至らなかった。

しかし、本プロジェクトの実施を契機として、例えば、「上小阿仁村地域見守りネットワーク会議」や「高齢者宅の除排雪支援の共助組織」の立ち上げ、「認知症高齢者等見守りネットワーク事業」実施など、村内には高齢者の見守り・支え合い体制が着実に強化されつつあり、地域による高齢者支援の必要性や重要性への理解が浸透していると評価できる。

(3) 「里山」を活用した交流人口の拡大

①事業の成果

村内中学生の1泊研修や県外大学のフィールドスタディーズや、上ノ岱スポーツエリア（テニスコート）を利用した高校生の合宿、首都圏大学等のゼミ活動など、宿泊交流拠点施設を積極的に活用することで、滞在型のイベントの開催を実現している点は高く評価できる。

今後も、秋田県林業大学校の研修（令和3年度）や地域イベントなど、利用者の拡大にむけた取組を計画しており、宿泊交流拠点施設の機能を活用した地域外との交流促進への高い意欲を感じる。

②成果指標の達成状況と事業の評価

体験メニュー参加者数は435人と目標には到達しなかったが（達成率43.5%）、本プロジェクトを契機として、NPO法人こあに食農観応援隊の設立による村事業と連動した観光PRや体験メニューの実施や、農家民宿の開業が予定されるなど、今後の交流人口の拡大に向けた萌芽的な要素がみられることから、目標到達に向けた取組の着実な実施が期待される。

(4) 更なる成果実現に向けた提言

①未達成の成果指標について

目標を未達成の指標（有償ボランティアの組織化、体験メニュー参加者数）については、その要因や課題を分析するとともに、プロジェクトの目的に照らして実効性のある指標や事業を再検討すること。

②コロナ禍での対応

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、動員型・集客型の事業実施が困難になると予想される

ことから、施設運営やイベント開催については、安全・安心に配慮した実施内容に即した成果指標や事業内容に見直しを図ること。

6 全体評価

平成30年4月にオープンした上小阿仁村集住型宿泊交流拠点施設「コアニティー」（以下「コアニティー」という。）は、集住型アパートエリア、短期滞在エリア、交流エリアの3つの機能を有しており、放課後児童クラブや各種会議、体験・研修活動等に活用されるなど、令和元年度の利用者数は目標値を上回る年間11,412人となった。

また、村の事業として実施している村内中学生の1泊研修や県外大学のフィールドスタディ、上ノ岱スポーツエリア（テニスコート）を利用した高校生の合宿などにも利用されているほか、令和3年度には、秋田県林業大学校の研修も予定されており、更なる利用を見込んでいる。

一方で、有償ボランティア組織については、自治会等に対してヒアリング調査を実施したほか、除排雪活動を行っている地域のグループに組織化を打診するなど、組織の立ち上げに向けて様々なアプローチを試みたものの、メンバーの高齢化や事務作業の担い手の確保、経費の問題等、組織立ち上げに関する課題を解決することができなかった。

体験メニュー参加者数については、目標値には届かなかったものの、平成29年に村の有志によって「NPO法人こあに食農観応援隊」が組織され、村特産のほおずきを使った染め物講習会といった新たな体験メニューが開発されており、参加者数も増加している。

7 今後の推進方針

民間アドバイザーの意見や全体評価を踏まえ、次のとおり推進するものとする。

（1）多様な世代が集い、交流する拠点づくり

コアニティーは、放課後児童クラブの子どもたちや、勉強や読書をしたり、趣味の囲碁を友人と楽しむ人など、様々な世代の人に利用されているほか、県外大学のフィールドスタディなどを通じて、村外の人たちとの交流の場としても活用されており、引き続き多様な世代が集う交流の場としての役割を果たせるよう環境整備を進める。

また、村民だけではなく、ボランティアや農業体験等で村を訪れる若者、お試し移住希望者、起業希望者、地域おこし協力隊など、村外からの来訪者との交流拠点としての機能を強化するため、村の自然や食、歴史・文化等を生かした体験メニューを開発するなど、更なる誘客につながる取組を強化する。

（2）高齢者の見守り・支え合い体制の充実・強化

除排雪のためのボランティアの組織化について必要性を再検討するとともに、更なる高齢化も見据えながら、高齢者等が住み慣れた地域において継続的に安心して暮らせるよう体制を整備する。

(3) 「里山」を活用した交流人口の拡大

自然や食、歴史・文化など、地元の強みを生かした新たな体験型メニューの開発や、大館市、北秋田市、小坂町、上小阿仁村の4市町村で構成される地域連携DMO一般社団法人秋田犬ツーリズム及び北秋田・上小阿仁まるごと体験推進連絡会と連携した観光情報の発信などによって交流人口の拡大を図る。

また、交流拠点、短期・長期滞在施設としての機能を有するコアニティーの強みを生かして、大学のフィールドスタディや林業・農業研修等の誘致を推進する。

【プロジェクトチーム構成員】

上小阿仁村	総務課、住民福祉課、産業課、建設課、教育委員会
県	地域づくり推進課（幹事課）、長寿社会課、林業木材産業課、森林整備課、北秋田地域振興局、